

# こひつじ

565 号  
2025 年 2 月 16 日  
カトリック香里教会  
宣教委員会発行

神の「御心」を求めて

主任司祭：ヨセフ 林和則

香里教会に派遣されて初めての新年を迎えました。お正月は教会の前の坂道を朝早くから夕暮れ時まで、大勢の人びとがぞろぞろと群れを成して行き来していました。残念ながら教会は素通りで、成田山不動尊に初詣に向かう参拝客の行列でした。

霊験あらたかと評判の

の意向は「死者の安息」もしくは「病気の回復」に限られると言ってもいいでしょう。

「ご利益」的な意向を受け付けることはできないのです。なぜならば、自分の願望を実現することが祈りの「目的」になってしまえば、神がその目的を達成するための「手段」となってしまうからです。

でも、確かに「ご利益」を求めて教会に來られても困ります。ミサの意向として「商売繁盛」とか「合格祈願」とかを頼まれても、受け入れることができないからです。皆さんもご存じのように、ミサ

病を患っている人がイエスに願った時のように（マタイ 8:1 - 4、マルコ 1:40 - 45、ルカ 5:12 - 16）「御心ならば」を前提として願うことです。

あくまでも主体は、決定権を有するのは神であって、私たちではないからです。

先に言いました「病気の回復」を意向としてミサを捧げる時も「御心であれば、回復をお与えください」と祈ります。残酷なようですが、その「病氣」が神の「御心」であり、神が与えたものであるかも知れないからです。

真の祈りの意向は「神の御心」の実現を求める

ことなのです。その祈りの模範こそが、天使のお告げを受けた時のマリアの祈りです。

「お言葉どおり、この身に成りますように（ルカ 1:38）」

マリアは神の「お言葉」が実現するために、自分を「道具」としてお使いくださいと祈ったのです。

「神の御心」の実現こそが「目的」であって、私たちはそのための「手段」「道具」になること、これが私たちの「祈り」です。